

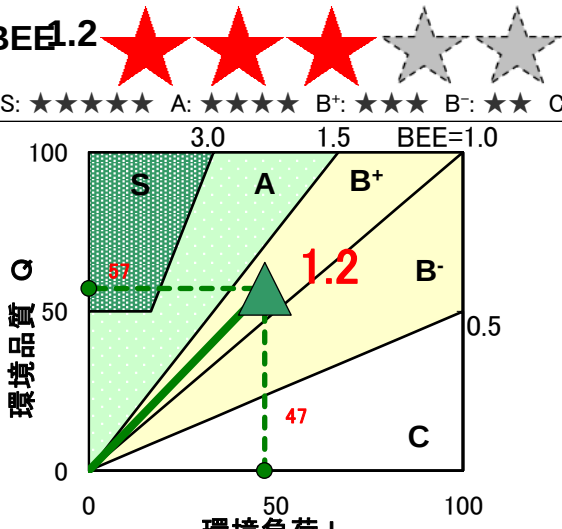
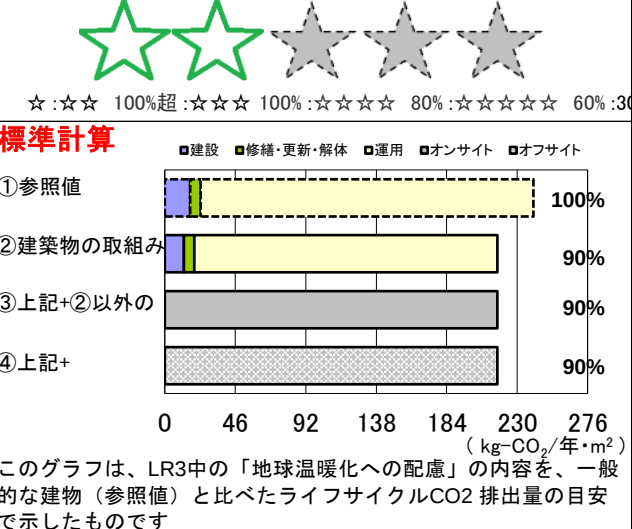
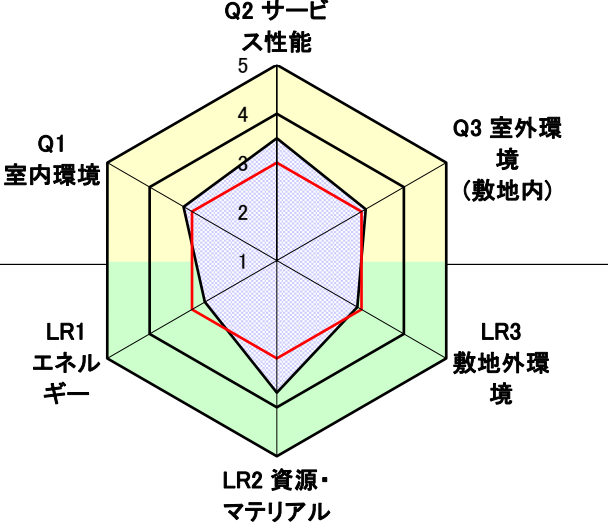


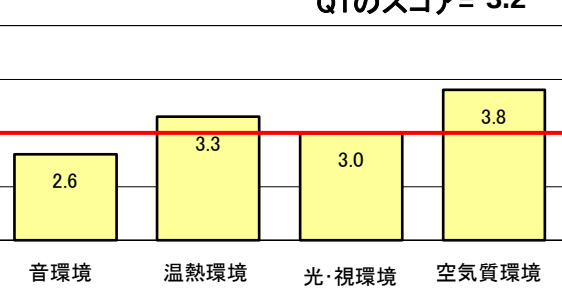
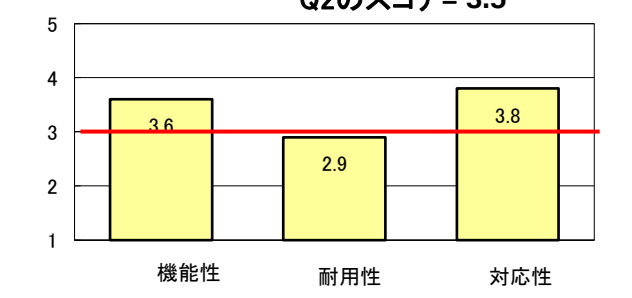
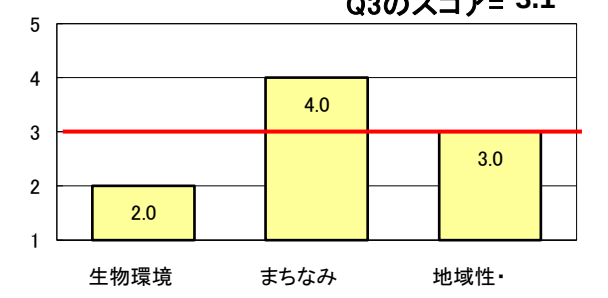
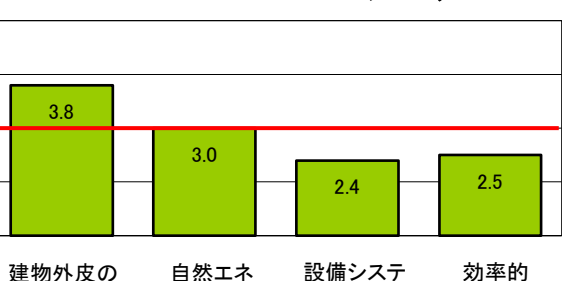
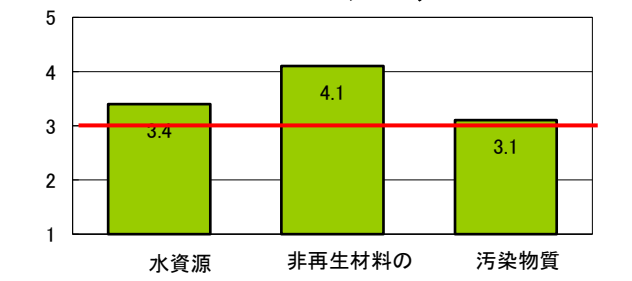
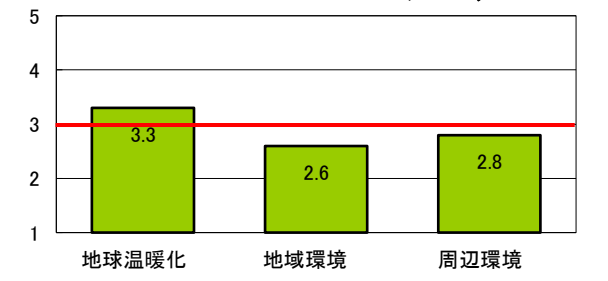
評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE 評価(新編)2016年版、名古屋中核都市環境配慮設計活用マニュアル2016 | 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)栄三丁目(丸栄跡地)再開発計画	階数	地上3F
建設地	名古屋市中区栄三丁目301-1,他38筆	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,826 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,840 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,飲食店,	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2021年11月29日
敷地面積	4,880 m ²	作成者	
建築面積	3,883 m ²	確認日	2021年11月29日
延床面積	11,334 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.2 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C 	☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30% 標準計算 	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア= 3.2 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2  Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5  Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1 		
LR 環境負荷低減性 LR のスコア= 3.1 LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.7  LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.7  LR3 敷地外環境 LR3のスコア=2.9 		

3 設計上の配慮事項		
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 周辺は高層の商業施設が建ち並ぶ地域であり、中部圏の中核都市名古屋の中心的な都市である。前面道路の広小路通歩道から1階壁面をセットバックさせ、ガラスを用いたファサードとすることで、施設内の賑わいを街と共有できるような計画としている。また、広小路通に面する北面はガラスカーテンウォールで構成し、繁華性のある街並みに寄与している。		
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 すべての建材はノンアスベスト品とし、屋内に用いる建材はF☆☆☆☆または規制対象外品を使用している。また、共用部及び各テナントは個別制御が可能な空調設備・換気設備を設け、十分な換気量を確保することで、室内汚染物質を低下させ、利用者の居住性を高めるよう計画している。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 共用部は天井仕上を行わないスケルトン天井とし、設備ダクトや電気配線の更新を容易に行うことが可能な計画とした。基本設計の段階から内観バースを用いて壁仕上材料や照明イメージを合わせて内装材の計画を進めた。各テナントから発生するゴミは建物内でまとめて保管・搬出をしやすい配置としテナント面積に対して十分なスペースを確保する計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 前面道路の広小路通歩道から1階壁面をセットバックさせ歩道にゆとりを持たせるとともに、アルコーブを設けることで都市空間の居住性を向上させている。外観は周辺建物との調和を図るよう、北面はガラスカーテンウォールで構成し、繁華性のある街並みに寄与している。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物西・南・東面の外皮はALC+断熱材を用いる計画とし、外皮性能を高めるよう配慮した。各テナント及び共用部で消費される各種エネルギー消費量総量を把握可能なシステムを設置している。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 共用部は多くの部分でスケルトンの仕上とし、仕上材を設置する箇所についても有害物質を含まない材料を用いる計画とした。主要構造部となる各階床には再生骨材を用いたコンクリートを使用し、内装材においてはビニル床タイルなどのリサイクル品を使用している。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 屋上駐車場の照明設備は建物中心に設置し、周囲に光害を発生させない様、配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)栄三丁目(丸栄跡地)再開発計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.8
LR1	エネルギー	2.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.5
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				3.9
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.8



2. 自然共生

評価点 = 2.5



3. 循環型社会

評価点 = 3.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。